



最近の豪ドルの動向と今後の見通しについて

＜直近の動向＞

最近、豪ドルが弱含みで推移しています。豪ドルの対円レート(対顧客電信売買相場仲値)は、4月末は101.35円でした。しかし、その後下落傾向となり、5月末には月間で3.42円下落(下落率は約3.4%)し、97.93円まで豪ドル安が進みました。

主な下落要因は次のとおりと考えられます。

- ①オーストラリア準備銀行(RBA:中央銀行)が5月7日に政策金利の引き下げを実施したこと(3%⇒2.75%)。
- ②米連邦準備制度理事会(FRB)の量的金融緩和第3弾(QE3)の縮小・出口戦略議論がにわかに活発化し、米国金利の上昇懸念が強まったこと。
- ③日本株式市場の急落(5月23日以降)で投資家のリスク回避の動きが高まり、円が買われたこと(豪ドルの対円レート 5月22日100.53円 ⇒ 5月31日97.93円)。
- ④中国景気の低迷や国際商品市況の下落が、オーストラリア経済にマイナスの影響を与えるとの懸念が高まり、オーストラリアの政策金利の更なる引き下げ観測が浮上したこと。

＜今後の見通し＞

今後の豪ドルについては、中国経済、国際商品市況、日本の株式市場の動向、米国の金融政策に左右された動きとなると思われます。

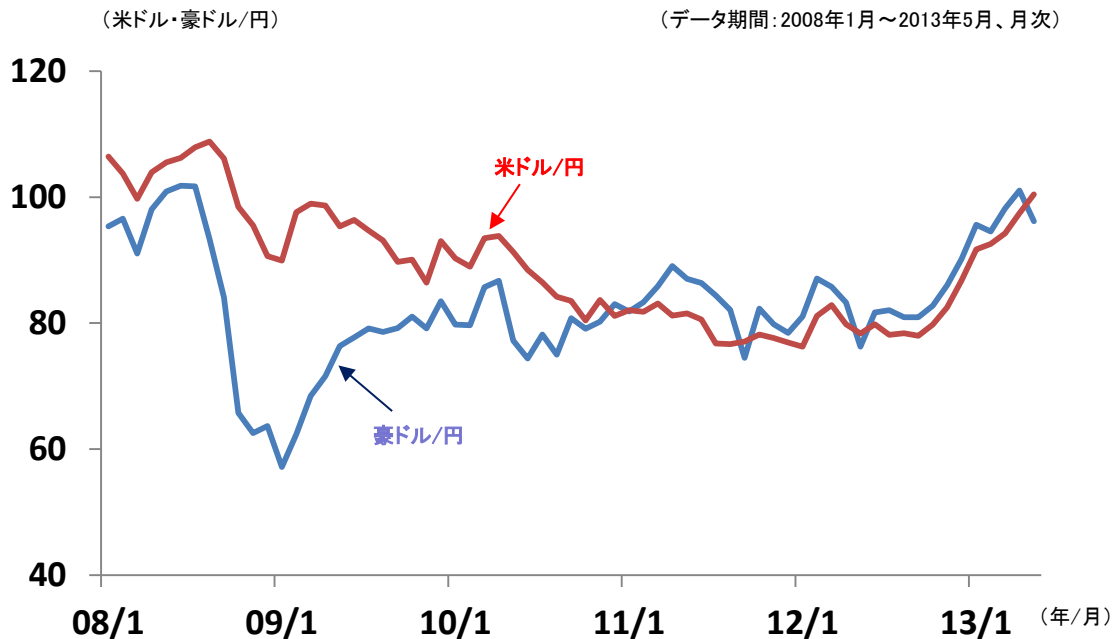
市場のリスク回避姿勢が完全に払しょくされるにはしばらく時間がかかりそうですが、以下の点から、豪ドルは長期的に、堅調に推移すると予想されます。

- ①今回の豪ドル安を受け、RBAが豪ドル高是正のための利下げを更に行う必要性が低下していること。
- ②オーストラリアが再度利下げに踏み切ったとしても、オーストラリアが主要先進国と比べて金利が高いこと。
- ③これまでの政策金利の引き下げが景気の下支えとして働いており、オーストラリア経済は内需を中心に回復してきていること。
- ④オーストラリア政府は9月14日に予定されている総選挙に向け、持続的な景気回復のための積極的な支援策を出してくるものと期待されること。

オーストラリアを取り巻く外部環境はまだ不透明ですが、オーストラリア経済のファンダメンタルズ(経済の諸条件、経済の基礎的条件)は安定しており、長期的に高金利通貨である豪ドルへの資金回帰が起こり、豪ドルは堅調に推移するものと予想されます。



【図表1】 米ドル/円レートと豪ドル/円レートの推移



【図表2】 オーストラリアの政策金利と10年国債利回り推移

